

福山市の横島漁業協同組合が、漁師の網にかかった海底ごみの買い取りを始めました。記事を読み、質問に答えましょう。

海底ごみ買い取り開始

福山市内海町の横島漁業協同組合（渡壁正勝組合長）が今月から、漁師の網にかかった海底ごみの買い取りを始めた。土のう袋1袋分当たり500円を支払い、処理費用も組合が負担。瀬戸内海の漁業環境の保全と再生を目指す。
 （安田有輝）

海洋環境改善目指す



底引き網漁で網にかかり、漁師が持ち帰った海底ごみ＝横田漁港

漁師らの声受け福山・横島漁協

海底ごみは、漁業の妨げや漁具の破損につながるほか、魚介類などへの悪影響が懸念されている。「現状を何とか変えたい」との漁師たちの声を受け、組合が中心となって海底ごみ対策に乗り出すことにした。

初日の1日夕、横田漁港（同所）に戻ってきた漁師たちが、土のう袋（縦60センチ、横45センチ）を次々と船から降ろした。袋の中身は、底引き網漁で網にかかった食品の包装袋やペットボトル、プラスチック製のパイプなど。全て合わせると41袋に上った。

漁師の中村修作さん（36）＝同所＝は「ごみの多さに腹立たし

「何かできることから始めよう」と考えた。海洋環境の改善に向け、皆が協力して取り組む機運が高まれば」と話している。

計画では毎週木曜日に各船で回収した海底ごみを港に集積。市内の業者に委託し、産業廃棄物として処理する。期間は「当面1カ月」。成果を見極め、さらに継続するか検討する。横島漁協は本年度、事業費に100万円を計上している。

岡崎宏司参事（62）は「何かできることから始めよう」と考えた。海洋環境の改善に向け、皆が協力して取り組む機運が高まれば」と話している。

6日付山陽新聞、備後版

Q1 福山市の横島漁業協同組合は、海底ごみを買うことで、瀬戸内海をきれいにし魚が住みやすい環境にすることを目指しています。この取り組みは誰の声で始まったでしょうか。第2段落をよく読みましょう。

Q2 海底ごみによって、漁業や魚介類などにどのような問題がありますか。第2段落から抜き出しましょう。

Q3 初日に回収された海底ごみは土のう袋41袋に上りました。どのようなものが回収されたでしょうか。第3段落や写真に注目です。

過去の問題は
 こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。